

# 探訪ズーム

福山市新涯・箕島地区 ①



## 優しい声かけ 元気の輪

### 通学路見守る70代コンビ

「おはよう」「来週は寒いから気をつけて」。午前7時半過ぎ、新涯町1丁目の新涯小の通学路に、優しい声が響いた。緑のジャンパー姿で横断旗を手にするのは小野塚巧さん(75)と佐藤謙治さん(76)。雨の日も雪の日も、子どもたちの登校を見守っている。

動画は中国新聞デジタルで



登校中の児童に声をかける佐藤さん(手前左)と小野塚さん(奥)

(撮影・井上貴博)

2人のあいさつに、園児や小中学生だけでなく大人も元気に応える。「6年前に始めた頃は、声をかけてもお通夜の行列みたいに静かだったんよ」と佐藤さん。「地域の子もたちには元気になってほしい」と、無視されてもあいさつを続けた。親しんでもらえるよう、赤やオレンジなど目立つ色のズボンを身につけて通学路に立っている。

児童が行き交う中、数軒先の家から「おじちゃん」

と呼ぶ声が聞こえてきた。幼稚園に向かう途中の園児たち。小野塚さんが向かっていき、「おはよう」とグータッチ。「毎日楽しみにしてくれている子もいる。元気な姿が生きがい」とほほ笑んだ。

同小には、市立小で3番目に多い約840人が通う。当初は交代で立っていたが、千葉県で下校中の児童の列にトラックが突っ込み2人が死亡した事故を受

け、コンビで立つようになった。

宝物は、児童たちからもらった手紙や折り紙。「いつも声をかけてくれてうれしかった」「こけた時助けてくれてありがとう」。小野塚さんは感謝の言葉がつづられた手紙を手帳に入れて毎日持ち歩く。「もらった時は涙が出た。これからも元気でいて、子どもたちの命を守りたい」

(原未緒)